

行政視察報告書

令和7年 11月 5日

長浜市議会議長 伊藤喜久雄様

長浜市議会議員

北川 陽大

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

- 視察等名 令和7年度 つなぐ長浜 大阪西成区こどもの里の子育て
- 視察期間 令和7年11月5日(水)
- 視察場所及び目的
①大阪府西成区 認定NPO法人 こどもの里

4. 調査内容感想等

・視察の目的

大阪市西成区釜ヶ崎の「こどもの里」で子どもたちの遊びと学びと生活の場の運営。また、貧困層、家庭環境に恵まれない子どもさんの最後の駆け込み寺のような存在となっている。長浜市での同様の状況の子どもさんの支援を学ぶ。

視察の内容

少子高齢化の中、大阪市では児童虐待の相談件数は反比例して大幅に増加している。しかし、西成区は児童虐待の相談件数は増加していない。

西成区では6つの中学校があるが、その中学校の生徒の保護者や教職員と直接、子どもの情報をもらえる環境となっている。

その中で、貧困層の多い西成区の子どもの虐待を受けている子どもも保護してい

る。

2025年で48年運営となっているが、基本的に大阪市の補助金とバザー支援金、そして一般の方々の寄付金で運営されている。しかし、市からの補助金は維新が行政のトップになってから大幅にカットされ寄付金頼みとなっている。

基本的に保護者から無料で預かっているので運営は本当に厳しい状況である。

西成区で貧困層の家庭ほど子どもが多く、保育園に通えない子どもが存在する。

様々な事情で、行政が守り切れない子どもを預かっている活動となっている。

大阪市西成区釜ヶ崎は日本でも貧困者数の高い地域である。だからこそ、子どもを無料にしてでも預かる施設が必要だと考えて運営している。

また、保育園に通っている子どもでも、親御さんの都合で預かる必要があるのであれば、保育園後に無料で預かっている。

また、幼い子どもだけではなく、中高生でも利用できる場として運営している。

あそび場、生活・相談の場、学びの場、受け入れられる場、新しい福祉地域文化を創造する場が5本柱となっている。

釜ヶ崎は日雇い労働者の町なので、その大人たちと一緒に子どもが運動会やお祭りを行っている。これによって、あらゆる年代、あらゆる環境の大人と関わる事が出来ている。釜ヶ崎は10年前まで、毎年、路上の野宿生活者が500人/年亡くなっているような町だった。その中でも20～25人/年は地元の中高生による路上生活者への殺人だった。そんな、子どもを増やさないためにも路上生活者

へのかかわりも意識して教育している。決して算数や国語を教えるだけが教育ではなく、人間教育こそが本当に大切だと考えている。

また、預かる子どもは日本人だけには限らない。外国人の子どもであっても分け隔てなく預かることにしている。

■本市の施策にいかせること

本市に限らず、日本は全体的に高齢者に手厚い制度や施設が多い。しかし、子どもやその親御さんを守る施設や制度が不足している。

◀ 施設の理事長が言われていた言葉で印象的だったのが

「高齢者に手厚くするなら、同じだけ子どもを手厚く保護しなければならぬ。」

という発言だ。

こちらの施設は市の補助金はわずかながらも寄付金など自助努力で運営されている。予算の関係でこういった施設を全額市税で運営は厳しいが、立ち上げるきっかけを作れるのではないかと感じる。